

様式第1号（第2条関係）

令和7年3月31日

恵那市長

小坂 喬峰 様

（恵那市議会議長経由）

恵那市議会議員 伊藤 勝彦



交 付 請 求 書

恵那市議会政務活動費の交付に関する条例第5条の規定により、下記のとおり請求します。

記

政務活動費請求金額 40,000 円

但し、令和6年12月分 ～ 令和7年3月分



様式第2号（第2条関係）

令和7年3月31日

恵那市議会議長
鵜飼 伸幸 様

恵那市議会議員 伊藤 勝彦

収 支 報 告 書

恵那市議会政務活動費の交付に関する条例第5条の規定により、令和6年12月分～令和7年3月分に係る政務活動費収支報告書を提出します。

記

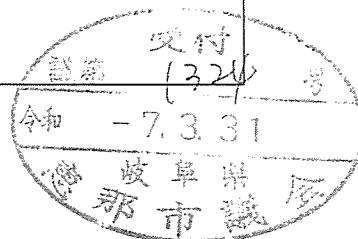
1 収 入

政務活動費 40,000 円

2 支 出

単位：円

項 目	支 出 額	備 考
調 査 研 究 費	44,008	視察費等
研 修 費		
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
合 計	44,008	



様式第3号(手引き第4章関係)

令和6年度 恵那市議会政務活動費会計帳簿

議員名 伊藤 勝彦

(令和6年12月1日 から 令和7年3月31日 まで)

単位 (円)

日付		整理 番号	条例別表 の項目名	摘 要	領収額	政務活動費 充当額	支出可能額 (残)
2	6	3	調査研究費	2/6 宿泊費	15,200	15,200	24,800
2	7	4	"	2/6,7 バス代金	28,808	24,800	0
合計					44,008	40,000	0

様式第5号（第5条関係）

領収書貼付用紙

年 度	令和6年度	項 目	調査研究費
整 理 番 号	3	議員名	伊藤 勝彦
支出の按分の状況	(按分の内容) 朝食代を除く宿泊費のみ計上 (16,640円-1,440円=15,200円)		
	(按分率) 100%		(政務活動費充当額) 15,200円
領収書の補足説明	2月6日～2月7日行政視察における宿泊代		
領収書又はこれに準ずる書類 貼付欄			

様式第5号（第5条関係）

領収書貼付用紙

年 度	令和6年度	項 目	調査研究費
整 理 番 号	4	議員名	伊藤 勝彦
支出の按分の状況	(按分の内容) 総額のうち10人で割った金額を計上 (288,080円÷10人=28,808円) (端数切捨て)		
	(按分率) 100%	(政務活動費充当額) 28,808円	
領収書の補足説明	2月6日～7日行政視察におけるバス代 (貸し切りバス代、高速料金、乗務員宿泊代)		

領収書又はこれに準ずる書類 貼付欄

請 求 書

請求書№: 00000755-001-01
発 行 日: 令和6年02月13日

新代会 様

〒ア一: 東京都港区

原 因: 令和6年02月06日(木)～
令和6年02月07日(金) (1泊2日)

このたびは御社をご利用いただきまして誠に
ありがとうございます。下記料金のご請求を
申し上げます。よろしくお願い致します。

株式会社ごとう
〒100-0001
東京都千代田市
TEL: 03-7777-0000
代表取締役: 伊藤 勝彦
問合せ: 伊藤 勝彦

登録番号: 17200002023798

合 計	お預り金額	ご請求金額
288,080円	0円	288,080円

うち消費税 26,189円 (10%税率 288,080円 消費税 26,189円)

品 目	単 位	数 量	金 額	備 考
1:貸切バス代(中型バス)		242,000	1	242,000/ワンマン
2:高速料金		24,280	1	24,280/高尾道路料金(大型車)
3:駐車場料		5,300	1	5,300/夜間駐車含む全行程
4:乗務員宿泊料		13,200	1	13,200/宿泊・食事等
5:旅行取扱料		3,300	1	3,300

領 収 証

№ 0001838

新代会 様

令和6年2月6日

金額 288,080円

商品コード: 00000755-001-01

株式会社ごとう観光

〒100-0001 東京都千代田市
TEL: 03-7777-0000 FAX: 03-7777-0001
代表取締役: 伊藤 勝彦
問合せ: 伊藤 勝彦

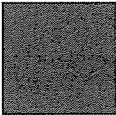
支 出 伝 票

金額 15,200 円

政務活動費として上記の金額を支出しました。

令和 7 年 3 月 3 1 日

恵那市議会議員 伊藤



- 1 支 出 先 東京都千代田区平河町二丁目四番三号
 ホテルルポール麹町
- 2 支出年月日 令和 7 年 2 月 1 3 日
- 3 支出の項目 調査研究費
- 4 支出の使途 宿泊代
- 5 領収書又はこれに準ずる書類を徴しがたい理由

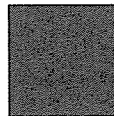
支 出 伝 票

金額 28,808円

政務活動費として上記の金額を支出しました。

令和7年3月31日

恵那市議会議員 伊藤



1 支 出 先 岐阜県中津川市蛭川5328
株式会社 ごとう観光

2 支出年月日 令和7年3月6日

3 支出の項目 調査研究費

4 支出の使途 2月6日～7日バス代

5 領収書又はこれに準ずる書類を徴しがたい理由

研修参加者10名分の領収書を代表者が受領しているため

令和7年3月31日

恵那市議会議長

鶴飼 伸幸 様

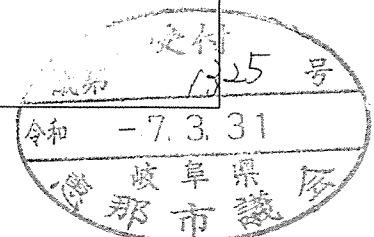
恵那市議会議員 伊藤

研修視察等報告書

恵那市議会政務活動費の交付に関する規則第4条の規定により、下記のとおり報告します。

記

- 1 期 間 令和7年2月6日 ～ 令和7年2月7日
- 2 研修視察先
 - 1日目：東京都港区 株式会社フォーラムエイト
 - 2日目：東京都千代田区 衆議院議員会館
東京都港区 リニア中央新幹線品川駅工事現場
- 3 研修視察名
新政会議員を中心とした有志議員による行政視察
- 4 研修視察者
千藤安雄、後藤康司、西尾 努、太田敦之、林 貴光、
柘植孝彦、服部紀史、伊藤勝彦、渡辺武彦、町野道明（10名）
- 5 概 要
 - 1日目：株式会社フォーラムエイト視察
 - 2日目：衆議院第二議員会館にて国の官僚による政策説明
リニア中央新幹線品川駅工事現場現地視察
- 6 効 果
別添の恵那市議会政務活動費実施（参加）記録書を参照ください。



様式第1号(手引き第3章関係)

令和6年度 恵那市議会政務活動費実施(参加)記録書

議員名 伊藤 勝彦

1. 会の名称	新政会
2. 開催日時	令和7年2月6日 13時30分 ～ 16時00分
3. 会 場	株式会社フォーラムエイト
4. 参加議員名	千藤安雄、後藤康司、鵜飼伸幸、西尾 努、太田敦之、林 貴光、服部紀史、伊藤勝彦、柘植孝彦、渡辺武彦、町野道明
5. 参加人数	10人
6. 内容(目的)	株式会社フォーラムエイトは、FIA世界ラリー選手権日本ラウンドのオフィシャルタイトルパートナーで、恵那市の自動運転実証実験の協力企業でもあり、ソフトウェア、サービスのクラウド化によりサステナブル社会、DXの時代を推進する企業の取り組み状況などを現地視察した。
7. 効 果	会社概要と業務内容について説明を受け、主な業務は、ソフトウェアパッケージの開発を基盤とした構造物設計や土木・建築を支援するソフトウェアと技術提供設計から始まり、現在ではドローン講習などを展開している。VR(仮想)空間を使用して現実と同じ学習体験での臨場感あふれる疑似体験は、これからの働き方や学び方に革命をもたらす技術で、上手に業務に活用することで、より効率的で柔軟な対応と作業効率化、質の向上も図られることが期待される。今後、このバーチャル業務とVRシミュレーションが果たす役割がますます重要となり、住民サービスの質を向上させるだけでなく、行政の効率化にも寄与すると感じた。

令和 6 年度 恵那市議会政務活動費実施（参加）記録書

議員名 伊藤 勝彦

1. 会の名称	新政会
2. 開催日時	令和 7 年 2 月 7 日 9 時 3 0 分 ～ 1 1 時 3 0 分
3. 会 場	衆議院第二議員会館 7 1 8 会議室
4. 参加議員名	千藤安雄、後藤康司、西尾 努、太田敦之、林 貴光、服部紀史、伊藤勝彦、柘植孝彦、渡辺武彦、町野道明
5. 参加人数	1 0 人
6. 内容（目的）	国の官僚から今後地方にとって重要となる以下の政策説明を受け、本市の市政に生かす。 1. 地方再生 2. 0 の今後の取組みとその活用 講師：内閣官房 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局参事官補佐 佐藤祐亮 2. 地方における魅力的なまちづくりの好事例 講師：国土交通省都市局市街地整備課企画専門官 松村知樹、まちづくり推進課企画専門官 丸茂 悠、街路交通施設課課長補佐 近安規晃
7. 効 果	1. 地方再生 2. 0 の今後の取組みとその活用 石破総理の重点政策「地方創生 2. 0」で、地方こそ成長の主役として設置された新しい地方経済・生活環境創生本部が、人口減少が続く地方を守り、若者・女性にも選ばれる地方（＝楽しい地方）などの政策強化と第 2 世代交付金での国の伴走支援強化などの地域課題解決に向けた、今後 10 年間集中的に取り組む考えなどが示され参考となった。 2. 地方における魅力的なまちづくりの好事例 恵那市でも策定を進めている立地適正化計画に基づく、持続可能で強靱な都市構造へ再編を図ることを目的とする「都市構造再編集集中支援事業」と車中心から人中心の空間へと転換を図り居心地がよく歩きたくなる街中づくりを推進する「まちなかウォークアブル推進事業」、未来ビジョン策定とビジョン実現のための自立・自走型システムの構築への支援「官民連携まちなか再生推進事業」の活用について参考となった。 両講義とも国が推進している最新事業の状況や今後の展望を知る貴重な情報を得ることができた。

様式第1号(手引き第3章関係)

令和6年度 恵那市議会政務活動費実施(参加)記録書

議員名 伊藤 勝彦

1. 会の名称	新政会
2. 開催日時	令和7年2月7日 14時15分 ～ 15時00分
3. 会 場	リニア中央新幹線品川駅工事現場
4. 参加議員名	千藤安雄、後藤康司、西尾 努、太田敦之、林 貴光、服部紀史、伊藤勝彦、柘植孝彦、渡辺武彦、町野道明
5. 参加人数	10人
6. 内容(目的)	着々と進むリニア中央新幹線の始発駅となる品川駅工事概要と工事現場の進捗状況を見学する。
7. 効 果	リニア中央新幹線の品川駅工事は、非常に難易度の高い工事で、稼働している東海道新幹線が走る真下の地下で駅舎工事が行われており、最新技術を駆使して、安全かつ効率的に工事が進められていた。この工事は、開削工事から始まりリニア中央新幹線品川駅の構造物となる作業空間完成後には、非開削工事が「シールド工法」で作業が進む予定とのことであった。早期の開業を目指して、慎重な監視と技術の進化が続けられており、国の重要なプロジェクトである新時代の交通機関が動き出していることを実感した。

令和 7 年新政会東京視察研修報告

令和 7 年 2 月 10 日

報告者 伊藤勝彦

I 研修概要

【研修日時と場所】

令和 7 年 2 月 6 日 (木)

○ (株) フォーラムエイト

港区南 2-15-1 品川インターシティ A 棟 21F

令和 7 年 2 月 7 日 (金)

○衆議院第一議員会館

千代田区永田町 2-2-1

○リニア中央新幹線品川駅工事現場

港区高輪 3-26-27

II 研修内容

1. (株) フォーラムエイト

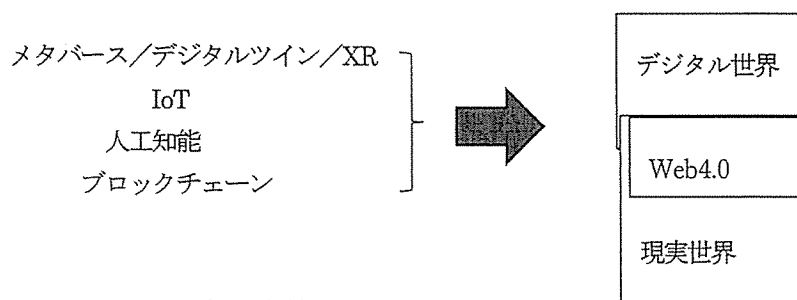
(1) 会社概要

フォーラムエイトは、創業以来ソフトウェアパッケージの開発を基盤として、構造物設計をはじめ土木・建築設計を支援するソフトウェア・技術サービスを提供してきた。近年ではバーチャルリアリティの開発により、広くプロジェクト全体や交通・自動車研究、さらには情報システム全般で活用されている。また、ソフトウェア、サービスのクラウド化によりサステナブル社会、DX の時代を推進する企業として精力的に活動を行っている。

(2) Web4.0 への展開

Web4.0 でのソフトウェア・サービス、開発環境の提供を予定

- ・Web4.0＝「デジタルとリアルオブジェクトや環境が統合され、相互にコミュニケーションすることで没入感のある体験が可能となる世界」(欧州委員会の定義)
- ・Web4.0 により、交通、自動車産業、環境・グリーン、ヘルスケア、教育など、あらゆる産業にインパクトが生まれ、さらなるマーケット拡大が期待されている。
- ・AI、IoT、ブロックチェーン、メタバース、デジタルツイン、XR も含まれており、これらへのソフトウェア、サービス、開発環境の提供を行っていく予定



(3) ソフトウェアパッケージの可能性

①まちづくり

- ・Web4.0 を活用し、まちづくりの構想を提案できる。
- ・デジタル世界でありながら、現実世界が想定でき、無駄のないまちづくりが可能となる。

②防災対策

- ・3D 図面サービスにより、浸水氾濫状況や津波解析により、災害を可視化でき、防災対策の参考となる。

(4) 体験

- ・イラスト自動生成ソフト マンガ・ミー
- ・3D ゲームエンジン

(5) 感想

- ・デジタル世界と現実世界を統合した Web4.0 は、今後に向けて様々な可能性を秘めていると感じた。都市計画をはじめとしたまちづくりの面では、図面ではイメージしにくいことを実際の映像としてみることで、様々な課題を可視化でき、無駄のない効果的な取組を行うことができる。
- ・IT の世界では、日本が遅れをとっており、日本は IT 赤字と言われている。そのような中で、国内に先進的なソフトウェアカンパニーがあることは、今後の展開を考えただけで、たいへん心強く思った。WRC 世界ラリー選手権のタイトルパートナーでもあり、今後に期待したい。

2. 議員会館での講話① 「地方創生 2.0 に向けた取組について」(内閣官房、内閣府)

(1) 「地方創生 10 年の取組と今後の推進方向」の概要

- ・人口増加等をしているところもあり、この中には地方創生の取組の成果と言えるものが一定数ある。
- ・人口減少や東京圏への一極集中などの大きな流れを変えるには至っておらず、地方が厳しい状況にある。

【地方創生 10 年の取組・成果】

- ・地方創生に関する地域の関係者の意識・行動の高まり
- ・各自治体による主体的な取組の推進(財政支援、人材支援、情報支援の活用)
- ・地方移住への関心の高まり、移住者数の増加
- ・人口に係る一定の成果 等

【残された課題、新たな課題と今後求められる取組方向】

- ①東京圏への過度な一極集中への対応
- ②少子化への対応
- ③地域の生産年齢人口の減少への対応
- ④地域資源を生かし、付加価値を高める産業・事業の創出
- ⑤地域における日常生活の持続可能性の低下などへの対応
- ⑥都市部と地方との連携機会の拡大
- ⑦大規模災害被害からの創造的復興に向けた貢献
- ⑧地方創生の取組に悩みを抱える自治体へのきめ細やかな支援
- ⑨地方創生の取組を加速化・深化するデジタル活用のさらなる拡大
- ⑩地域・社会課題の解決に向けた規制・制度改革

(2) 新しい地方経済・生活環境創生本部(新地方創生本部)について

①地方創生の 2.0 の趣旨

- 都市も地方も、安心・安全で心豊かに暮らせる持続可能な地域経済社会を創るため、これまでの成果と反省を活かし、地方創生 2.0 として再起動させ、人口減少社会につなげる。
- 国は、国でなければできないこと、国として挑戦せねばならぬことに取り組む。省庁の縦割りを排し、各省連携して施策を「統合化」、「重点化」して推進する。
- 地方は、「産官学金労言」からなる地域のステークホルダーが知恵を出し合い、他の地域の好事例も学びつつ、自主的・主体的に取り組む。

②「基本的な考え方」のポイント

○「基本的な考え方」として、以下の5点を年末に向けて検討。

- 1)安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生
- 2)東京一極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散
- 3)付加価値創出型の新しい地方経済の創生
- 4)デジタル・新技術の徹底活用
- 5)「産官学金労言」のステークホルダーの連携など、国民的な機運の向上

(3) 地方創生 2.0 の基本的な考え方」概要

◆地方創生 2.0 を検討していく方向性 (1.0 との違い)

(基本姿勢)

- ・当面は人口・生産年齢人口が減少するという事態を正面から受け止めたうえで、適応策を講じていく。
- ・「人を大事にする地域」、「楽しく働き、楽しく暮らせる地域」を創る。
- ・災害に対して地方を取り残さないよう、都市に加えて、「地方を守る」。

(社会)

- ・「若者・女性にも選ばれる地方(＝楽しい地方)」をつくることを主眼とする。
- ・アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)の解消など魅力ある働き方・職場づくりを官民連携で進める。

(経済)

- ・地域資源を最大限活用した高付加価値型の産業・事業を創出する。

(基盤)

- ・急速に進化するデジタル・新技術を最大限活用する。
- ・地方と都市の間で、また地域の内外で人材をシェアする。

◆地方創生 2.0 の基本構想の5本柱

- ①安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生
- ②東京一極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散
- ③付加価値創出型の新しい地方経済の創生
- ④デジタル・新技術の徹底活用
- ⑤「産官学金労言」の連携など、国民的な機運の向上

(4) 感想

- ・地方創生が取り組まれるようになって10年、多少の成果はあったものの、基本的には地方から東京圏への流れを大きく変えることができていないというのが、報道関係をはじめとした世の中の認識である。
- ・東京一極集中と因果関係が強いのが少子化である。若い女性の働く場所が限られていること、さらにはアンコンシャス・バイアスが大きな要因だと言われている。この課題を克服することは、日本、とりわけ地方にある男性中心の社会観を転換していく必要があるが、たやすいことではない。けれども、このことを解決していかないかぎり、地方創生、さらには少子化の克服は難しいように思える。
- ・恵那市に照らし合わせてみれば、やはり、若者の働く多様な職場を用意することが重要だと思う。そのためには、多様な企業を誘致すること、さらには若者の起業しやすいシステムを構築することだと思う。それと同時に地域の魅力づくりと発信だと思う。

3. 議員会館での講話②

(1) 「都市構造再編集中支援事業」

- 「立地適正化計画」に基づき、地方公共団体や民間事業者等が行う都市機能や居住環境の向上に資する公共

公益施設の誘導・整備、防災力強化、災害からの復興、居住の誘導の取組等に対し集中的な支援を行い、各都市が持続可能で強靱な都市構造へ再編を図ることを目的とする事業。

(2) 「まちなかウォークラブル推進事業」

○車中心から人中心の空間へと転換を図る、まちなかの歩いて移動できる範囲において、滞在の快適性の向上を目的として市町村や民間事業者等が実施する、道路・公園・広場等の整備や修復・利活用、滞在環境の向上に資する取組を重点的・一体的に支援し、「居心地がよく歩きたくなる」まちなかづくりを推進する事業。

(3) 「官民連携まちなか再生推進事業」

○官民の様々な人材が集積するエリアプラットフォームの構築やエリアの将来像を明確にした未来ビジョンの策定、ビジョンを実現するための自立・自走型システムの構築に向けた取組を総合的に支援し、多様な人材の集積や投資を惹きつける年の魅力・国際競争力の強化を図る。

(4) 感想

・最も興味深かったのは、未来ビジョン策定とビジョン実現のための自立・自走型システムの構築への支援で、具体的には「エリアプラットフォーム活動支援事業」です。その手順は、次の通りである。

①エリアプラットフォームの構築

企業、行政、住民、まちづくり会社、大学、商工会議所、就業者など、まちなか再生に向けたビジョンを実現するために一体となって取り組む人材を集積させ、未来ビジョンを共有する。これが自立・自走型システムとなる。

➡このシステムの構築に向けて中間支援組織・専門人材を活用

②未来ビジョンの等の策定…官民の多様な人材が共有するビジョン

「未来ビジョン策定」にあたり、単年度あたり上限1,000万円が補助される。

「未来ビジョン」に記載する事項は、次の通りである。

○地域の特性の現況分析…都市の魅力や国際競争力を備えた都市を構築するため、現状のエリアの魅力（強み）や課題を抽出・分析。

○地域の特性を踏まえた目指す姿…内外の多様な人材に対し、魅力的でわかりやすいビジュアルにより、エリアの将来像を示す。

○目指す姿に向けた施策と役割分担…まちなかの将来像を実現するための方針や施策、実施体制（役割分担）を記載。

○目指す姿に向けたロードマップ…まちなかの将来像を実現するため、各段階ごとの取組の内容等を記載。

③シティブロモーション・情報発信…国内外の多様な人材を惹きつける未来ビジョン等のPR・情報発信

④社会実験・データ活用…公共空間等を活用した官民の人材が発掘・集積されるコンテンツの創出

⑤交流拠点等整備…人材の集積・ネットワークの構築

・「エリアプラットフォーム」は、地域に住む住民や企業だけでつくることは難しく、それを支援するための専門人材に支援ししてもらう必要がある。例えば、大正村を核とした明智町の町並みをどのように復活させるのかという未来ビジョンを策定することに大いに寄与するのではないかと思った。うまく活用する手立てはないものかと思いながら話を聞いた。

4. リニア中央新幹線品川駅

(1) 品川駅の工事手法についての説明



(2) 工事現場の視察



(3) 感想

- ・現在の新幹線品川駅の地下にリニア新幹線の駅を建設する方法や現場を直接見ることができ、たいへん興味深く思った。
- ・様々な工法を用いながら建設を進めていることを知り、業者の努力に頭の下がる思いであった。